

鑑賞の活動を中心にした指導

東京都

1. 題材名 歌舞伎のおもしろさを発見しよう（全5時間）

2. 題材の目標

- ①歌舞伎の音楽に親しませることを通して、日本の伝統音楽への興味を持たせる。
- ②三味線、小鼓、大鼓、能管の音色、およびそれらの組み合わせによる表現の効果を感じ取らせる。
- ③長唄の発声や表現の特徴を感じ取らせる。
- ④歌舞伎を総合的な面から鑑賞する力を身につけさせる。

3. 題材設定の意図

1) 題材の特徴

日本の音楽を鑑賞する力は、生徒にぜひ身につけさせたい力の一つである。今回の学習指導要領では、中学校3年間の間に、和楽器を演奏する機会を生徒に持たせることになった。本題材では日本の楽器（三味線、小鼓、大鼓、能管）の鑑賞、長唄、歌舞伎の上演舞台の鑑賞を通して日本の伝統音楽である歌舞伎に興味を持つきっかけとしたい。また総合芸術である歌舞伎に親しむことは、他の芸術分野に関心を持つ機会にもなると思われる。

2) 本題材での評価活動

鑑賞学習は生徒個々の内的な活動であるため、指導者も生徒も活動の目標とその達成度が見えにくい。そのためなるべくわかりやすい具体的評価規準を設定することを工夫した。5時間扱いの本題材で、7項目の評価規準を設定したが、少ない授業時間を大切にすることを考え、必要かつ重要な項目に絞って設定した。また鑑賞メモを記入させ、個人の感じ取りを評価する資料とする。

4. 教材及び教材選択の理由

1) 教材名

長唄「勸進帳」より「滝流しの合方」

長唄「勸進帳」より「旅の衣は～海津の浦に着きにけり」の部分

歌舞伎「勸進帳」

2) 教材選択の理由

「滝流しの合方」

長唄は歌舞伎の伴奏音楽として発展してきたもので、唄、三味線、能管、小鼓、大鼓、締太鼓で演奏される（「勸進帳」では、締太鼓は使われない）。当時の様々な音楽様式を取り入れ、三味線音楽の中でもっとも華やかな音楽の一つである。「滝流しの合方」は明治時代に三世杵屋正治郎が作曲し、長唄「勸進帳」に挿入したもので、歌舞伎舞台では演奏されないが、華やかでリズムカルであり一般的

によく知られている。中学生に三味線、小鼓、大鼓、能管の響きを親しませるのに適した教材である。

「勸進帳」

歌舞伎は様々な芸術の分野が一体となって成立する総合芸術である。「勸進帳」は、天保11年(1840)三世並木五瓶が脚色、四世杵屋六三郎が曲をつけ、四世西川扇蔵の振り付けで、七世市川団十郎により、歌舞伎十八番の一つとして江戸の河原崎座で初演された。能楽「安宅」から題材をとった松羽目物である。兄源頼朝に追われる身となった義経と武蔵坊弁慶の一行は、山伏に変装し奥州の藤原氏を頼って逃げ落ちていく。途中、関守の富樫左衛門が守る安宅の関(石川県)で起こった出来事の物語である。緊密な劇構成を持ち、また長唄は楽器編成が大きく音楽的にもすぐれた名曲であることから、現在でも上演回数が多い。(勸進帳とは、神社や寺院を建築したり修理したりするのに必要な費用を寄付してもらうために、その目的や趣旨が書かれている文書のことである)

◇「旅の衣は～海津の浦に着きにけり」

長唄「勸進帳」の冒頭にあたる。謡^{うたい}がかり(能の謡曲風の重々しい歌い方)、下記^{げき}がかり(人形浄瑠璃の一派である下記節の勇壮な語り口をとり入れた歌い方)、寄せの合方(登場人物が舞台上に現れる時に楽器だけで演奏される部分)、長唄本来の歌い方(華やかで技巧をこらした歌い方)など、当時の様々な芸能をうまく取り入れるという長唄の特徴がよくわかる部分である。

	能管	小鼓	大鼓	三味線	唄い方の特徴
旅の衣は篠懸の、旅の衣は篠懸けの 露けき袖や しおるらん	○	○	○		謡がかり
時しもころは如月の 如月の十日の夜				○	下記がかり
月の都を 立ち出でて				○	連吟
(寄せの合方)		○	○	○	
これやこの 往くも帰るも別れては 知るも知らぬも 逢坂の山かくす 霞ぞ春はゆかしける 波路はるかに行く船の 海津の浦に着きにけり	○	○	○	○	長唄本来の唄い方

◇弁慶が義経を金剛杖で打つ場面

三味線の急変する音楽にのせ、舞台の雰囲気が一転する。富樫らに斬りかかろうとする四天王を押しとどめる弁慶、弁慶と富樫との激しいやりとり、義経を打つ時の様式的な所作、弁慶の見得、など、台詞がわかりにくくても、歌舞伎の劇としての面白さを味わえる場面である。

◇「判官御手を～」

弁慶の機転により難をのがれた一行が、近くの山中で一休みする場面。弁慶は、杖で打ったことを義経に涙ながらにわびる。優美な三味線を伴奏に一中がかりで、哀切こもった場面が展開される。

◇延年の舞

富樫に酒を振る舞われ酔った弁慶が、興にのり延年の舞(元来は僧による寺院芸能の一種)を披露する。始めはゆるやかにだんだんとリズムにのり軽やかに舞う。歌舞伎役者として舞姿の見せどころとなる場面である。

◇飛び六法

義経たちを先に逃がした弁慶は一人残り富樫に礼を述べた後、見得をきり、勇壮に足音をたてながら跳ぶように花道を去っていく。「飛び六法」とは、花道の引っこみの時のこの所作のことをいう。

この資料は、「**授業ですぐ使えるシリーズ HDD 版音楽科教育実践講座**」に収録されている資料の中から、一部抜粋したサンプル資料です。

本資料が収録されている商品については、株式会社ニチブンのホームページをご覧ください。

<http://www.nichibun.com>